

DS-09「地盤品質判定士の役割と期待」

DS-09, Task and Expectation to Professional Engineer for Geotechnical Evaluation

北 詰 昌 樹 (きたづめ まさき)
東京工業大学 教授

小 田 部 雄 二 (おたべ ゆうじ)
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 執行役員 営業統括

1. はじめに

地盤品質判定士の資格制度は、東北地方太平洋沖地震での大災害で顕著になった既存や新設の宅地の品質・安全性の評価・品質判定を行い、主に宅地における地盤災害の防止や軽減に貢献することを目的に 2013 年に創設された。ディスカッションセッション「地盤品質判定士の役割と期待」では、地盤に関する諸問題について、品質評価の方法・実情と地盤品質判定士の業務などを発表して、地盤の品質評価における判定士の役割と期待について議論・討議した。

2. 発表と討議

本セッションでは、表-1 に示す計 17 編の投稿があり、2 つのサブセッションに分けて発表、討議を行った。

表-1 発表論文一覧

タイトル	発表者
地盤品質判定士の役割と活動	北詰
地盤品質判定士会神奈川支部の設立と今後の課題	立花
一土木系地盤技術者から見た住宅地盤調査	菅野
宅地における擁壁に係る法令と適用範囲	大久保
国土交通省告示第1113号におけるいくつかの用語の間違 いについて	杉村
住宅地盤の評価に対する一考察 その2	小野
スウェーデン式サウンディング試験とN値、qu値との相 関の再検討	大島
戸建住宅業界の柱状改良工法に対する注意喚起 (その2)	菱沼
含水比による体積圧縮係数と圧密係数の推定	尾上
不同沈下を生じた宅地地盤の調査事例から地盤品質判定 士に望む役割について	原
大規模盛土造成地の変動予測調査の事例と課題	藤田
地盤品質判定士が目見た2016年熊本地震の宅地被害	諏訪
熊本県益城町から採取した火山灰質土の物理・力学特性 ～平成28年熊本地震における宅地被害の考察～	森
震災宅地擁壁復旧に関する事業と設計上の留意点	門田
大規模盛土造成地マップの留意点と活用について	山口
スレーキング性岩盤で造成した谷埋め盛土の経年変化	市川
地震時における盛土造成宅地上の木造建物被害リスクに ついて	佐藤

2.1 第1セッション

まず、第1セッションでは、地盤品質判定士の役割と現在の活動などの発表があった後、宅地・地盤評価に関する法令についての発表があった。その後、スウェーデン式サウンディングを中心に地盤評価方法の現状と課題、さらに、柱状地盤改良工法の施工に関する発表があった。発表に続く討論では、土木分野と建築分野での設計の考え方、法令などの環境の違いなどが明らかになったが、判定士を活用するためには、建築・土木の垣根を越え、住民の方にとって役立つような仕組みを作る必要が強調された。一方で、判定士を業務として行っていくことの難しさ（住宅建築数の減少や地盤災害の復旧などへの対応可能な判定士数が限られていること）についても話があった。一般市民の方から多額の報酬・相談費を頂くことは難しい、当面は判定士のボランティアな活動・応援を期待しながら、一般市民への普及を進めていくのが必要とのまとめで締めくくった。

2.2 第2セッション

第2セッションでは、主に地震時の災害・被害の原因やリスク評価などが発表された。続く討論では、住宅地ではコストや時間などの制約から得られる土質定数が限られていること、ハザードマップなどの情報も未整備な地域も多いことなどが指摘された。このように限られている情報から住宅地の品質の評価をすることが判定士には求められている。判定士には、日頃からできる限り多くの情報に接するとともに情報を共有し、スキルを磨くことが大切との議論があった。セッションの最後には、熊本地震の災害復旧における住民の方からの相談の事例が紹介され、判定士には詳細な地盤の評価だけでなく、住民の不安を聞き取り安心させることも求められているとの話でセッションを締めくくった。

3. おわりに

本セッションで討議されたように、判定士制度も世の中に広まり始めるにつれて一般市民の方の判定士への期待は大きくなってきている。その一方で、限られた情報で地盤の品質を判定せねばならないなど、技術的な難しさも明らかになった。判定士は常日頃からのスキルアップが求められている。

(原稿受理 2017. 7. 21)